様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 ２２ 日現在

機関番号：３３９２９
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2011～2014
課題番号：２３７３０６８３

研究課題名（和文）成人型アトピー性皮膚炎患者に対する心理的アプローチプログラムの開発

研究課題名（英文）Enforcement and verification of an effect of the developed program for adult atopic dermatitis patient' s anxiety to itch.

研究代表者
角田　美華（樋町美華）（Kakuta, Mika）

東海学園大学・人文学部・助教

研究者番号：２０５５０９７４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は，成人型アトピー性皮膚炎患者の痒みに対する不安軽減のためのプログラムを開発し，その効果について検証することを目的とした。プログラム開発のための事前調査から，成人型アトピー性皮膚炎患者の不安タイプは3タイプに分類されることが明らかになったと同じに，一般成人と比較して抱える不安特徴は多いことが明らかとなった。そこで，これらの要因を取り入れた痒みに対する不安軽減プログラムを開発し，成人型アトピー性皮膚炎患者を対象に実施した。プログラムの効果を質問紙で検証した結果，痒みに対する不安の軽減および健康関連QOL向上に効果のある可能性が示唆された。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop the program for the adult atopic dermatitis patient’s “anxiety to itch” reduction, and to have verified the effect. From the result of a prior study for the program development, it was clarified that adult atopic dermatitis patient’s anxiety was classified into three types. And, it was shown that adult atopic dermatitis patients had anxiety more than healthy adults. Then, a program adopting the above factors was developed for “anxiety to itch” reduction program and was implemented for adult atopic dermatitis patients. Having verified the effect of the program by another set of questionnaires, the possibility was suggested that the program was effective in reducing “anxiety to itch” and increase health related QOL.

研究分野：臨床心理学

キーワード：不安　成人型アトピー性皮膚炎　心理的プログラム

１．研究開始当初の背景

成人期のアトピー性皮膚炎患者（Atopic Dermatitis: AD）への治療は薬物治療，スキンケア，心身医学的治療の 3 つの柱が重要であるとされているが，心身医学的治療である心理面への介入方法については十分に検討されていない状況にある。その背景に，これまでの研究では，成人型 AD 患者は心理的な問題を抱えているといった訴えがなされるのみであり，それらに対応する具体的な方法について検討される機会がほとんどなかったことがあげられる。また，すでに成人型 AD 患者へ心理的プログラムは実施されてきているが，ターゲットとなる心理的問題に一貫性がないため（Chida, Steptoe, Hirakawa, Sudo, & Kubo, 2007），エビデンスの蓄積が十分でないといった問題点も存在している。さらに，ターゲットとなる心理的問題に一貫性がないことは，用いられる方法にも一貫性をもたらさないといった二次的な問題も発生させている。

以上の問題点から，成人型 AD 患者へ十分な心理的プログラムを提供するためには，ターゲットとなる心理的問題を明確にすること，そしてそのターゲットとなる問題へのプログラムの開発および効果検証が必要であるといえる。

２．研究の目的

成人型 AD 患者の「痒みに対する不安」を軽減させるためのプログラムを構築し，その効果について検討することを目的とした。具体的には，研究 1：介入プログラム構築のため，成人型 AD 患者が抱える不安の構成要素について明らかにすること，研究 2：研究 1 で明らかとなった成人型 AD 患者の不安特徴から「痒みに対する不安軽減プログラム」を構築および実施し，その効果を検証すること，の 2 点であった。

３．研究の方法

研究 1　痒みに対する不安軽減プログラムの開発

皮膚科外来に通院する成人型 AD 患者 37 名と一般企業に勤務し身体的・精神的な疾患を抱えていない 46 名を対象に，主として不安を尋ねる質問紙に回答してもらった。その結果から明らかとなった痒みに対する不安軽減に関わる要因から構成されるプログラムが開発された。なお，対象者は皮膚科担当医から研究についての説明を受け，同意が得られた者のみとなっている。

研究 2　痒みに対する不安軽減プログラムの効果の検証

皮膚科に教育入院形式で入院している成人型AD患者20名を対象にプログラムを実施した。20 名中 2 名はドロップアウトしたことから，最終的に介入群 9 名，統制群 9 名の計 18 名が対象となった。プログラムは報告者が講師となり，講義と実践から構成され，1 回 60 分，全 3 回，第一週目火曜日・木曜日・金曜日に実施された。実施期間は，平成 26 年 2 月～平成 27 年 3 月であった。なお，対象者は担当医から研究に対する説明を受け，同意が得られた者のみとなっている。

４．研究成果

研究 1　痒みに対する不安軽減プログラムの開発

成人型 AD 患者および一般成人を対象とした調査から，成人型 AD 患者が抱える不安は 3 つのタイプに分類可能であることが明らかとなった（Fig. 1）。一つ目のタイプは，すべての不安得点が低い低不安タイプであり，二つ目のタイプはすべての不安得点が高い高不安タイプ，三つ目のタイプは身体に関わる不安得点のみが高い身体高不安タイプの 3 タイプであった。

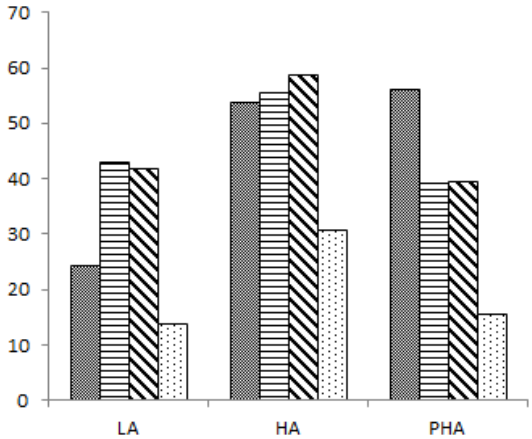

Fig. 1　不安の分類結果

それぞれの不安タイプに属する成人型 AD 患者について検討行った結果，低不安には 6 名，高不安には 17 名，身体高不安には 14 名が属することが明らかとなった（Table 1）。

Table 1　不安の分類

	一般成人	軽症 AD患者	中等症 AD患者	重症 AD患者
低不安	36	1	2	3
高不安	9	7	5	5
身高不安	1	2	6	6

以上の結果から，成人型 AD 患者に対するプログラム開発の要素として，不安について知ることとその不安を上手に対処するための方法を身に着けることの 2 つが重要であることが示された。

そこで，研究 1 では Table 2 に示すプログラムの開発を行った。初回は，心理教育として成人型 AD 患者が抱える不安（痒みに対する不安およびその他）について理解するための内容から構成されている。2 回目および 3 回目は，痒みに対する不安を含む不安を上手に対処するための方略としてディストラクションの説明および実践，リラクセーション法（漸進的筋弛緩法）の説明および実践から

構成されている。

Table 2　プログラム内容

テーマ	主な内容
アトピー性皮膚炎とは	①アトピー性皮膚炎についての基本的知識についての復習 ②アトピー性皮膚炎患者が抱える不安についての説明 ※不安は状態不安・特性不安・不安感受性・痒みに対する不安
対処方法の獲得（1）ディストラクション	①不安などのストレスを感じた後の対処方略使用の意義について説明する ②対処方略の１つであるディストラクションについて説明する ③ディストラクションの効果を理解するため，実験的に実施する
対処方法の獲得（2）リラクセーション	①２回目と同様に，対処方略の１つであるリラクセーション法について説明する ②リラクセーション法（漸進的筋弛緩法）の練習を行う ②リラクセーション法の効果を理解するため，実験的に実施する

研究 2　痒みに対する不安軽減プログラムの効果の検証

平成 26 年から平成 27 年にかけて，教育入院形式で皮膚科病棟に入院している成人型 AD 患者 9 名（男性 4 名，女性 5 名））を対象として痒みに対する不安軽減プログラムを実施した。なお，同様の形式で入院している患者 9 名（男性 4 名，女性 5 名）を統制群とした。実施形式は毎回講師 1 名，参加者 2－3 名であった。

まず，プログラム実施群と統制群の特性の等質性を確認するため年齢，罹患期間，現在の治療の満足度について *t* 検定を実施した。その結果，いずれも有意差は認められなかった（年齢：$t(16)=1.40$, *n.s.*, 罹患期間：$t(15)=1.40$, *n.s.* 治療満足度：$t(16)=.71$, *n.s.*）。また，発症時期（子どもの頃から続いている，一度よくなったが 13 歳以降に再発した，13 歳以降に初めて発症した）についても比較を行ったが，プログラム実施群と統制群の間に有意な差はなかった（$\chi^2(2)=2.25$, *n.s.*）。

続いて，プログラム実施群と統制群の不安特性についてプログラム実施前の状態が等質であるか比較するため *t* 検定を実施した。なお，プログラム実施群および統制群は，プログラム開始前と終了時に痒みに対する不安，痒みに対する不安を感じた際の掻いている強度と時間，状態不安，特性不安，不安感受性，健康関連 QOL を尋ねる質問紙に回答が求められている。分析の結果，プログラム実施前の特性においては，すべて有意差は認められなかった（痒みに対する不安：$t(16)=.07$, *n.s.*，掻いている強さ：$t(16)=.11$, *n.s.*，掻いている時間：$t(16)=.15$, *n.s.*，状態不安：$t(16)=2.03$, *n.s.*，特性不安：$t(16)=..05$, *n.s.*，不安感受性：$t(16)=1.57$, *n.s.*，症状・感情：$t(16)=1.03$, *n.s.*，日常活動：$t(16)=.33$, *n.s.*，レジャー：$t(16)=.21$, *n.s.*，仕事・学校：$t(14)=.06$, *n.s.*，人間関係：$t(16)=.74$, *n.s.*，治療：$t(14)=.18$, *n.s.*）。

プログラム実施群と統制群の等質性が確認されたため，プログラムの実施の効果について検討を行った。まず，プログラム実施群では，3 回のプログラム実施前と実施後では，痒みに対する不安が有意傾向であるものの減少していた（$t(8)=2.30$, $p=.05$）。さらに，状態不安においても有意な減少が認められた（$t(8)=5.20$, $p<.01$）。また，健康関連 QOL では，症状・感情（$t(8)=2.53$, $p<.05$），日常活動（$t(8)=2.77$, $p<.05$），レジャー（$t(8)=2.63$, $p<.05$），仕事・学校（$t(6)=3.29$, $p<.05$）において有意な得点減少が認められた（Table 3）。

Table 3　実施群における得点の変化

	実施前	実施後	*t* 値
痒みに対する不安	59.33	51.78	2.30 †
強度	17.67	14.89	1.00
時間	14.89	12.78	0.77
状態不安	48.78	37.22	5.20 **
特性不安	50.56	45.67	1.27
不安感受性	20.67	19.44	0.97
症状･感情	3.33	2.00	2.53 *
日常活動	2.44	0.78	2.77 *
レジャー	2.00	0.78	2.63 *
仕事･学校	1.14	0.29	3.29 *
人間関係	1.11	0.67	1.51
治療	1.33	0.78	1.89

†$p<.10$, *$p<.05$, **$p<.01$

一方，統制群では健康関連 QOL の症状・感情（$t(8)=3.62$, $p<.01$）と日常活動（$t(8)=2.99$, $p<.05$）においてのみ得点の有意な減少が認められた（Table 4）。

Table 4　統制群における得点の変化

	実施前	実施後	*t* 値
痒みに対する不安	59.78	51.00	1.79
強度	18.22	11.33	2.04
時間	15.56	10.33	1.69
状態不安	43.22	39.33	1.77
特性不安	50.33	46.56	1.77
不安感受性	14.00	14.00	0.00
症状･感情	4.11	1.78	3.62 **
日常活動	2.78	0.44	2.99 *
レジャー	1.78	0.33	1.84
仕事･学校	1.11	0.33	1.79
人間関係	1.89	0.11	2.14
治療	1.44	0.56	2.29 †

†p<.10, *p<.05, **p<.01

以上の結果から，本プログラムを実施することにより，成人型 AD 患者が抱える痒みに対する不安の軽減および健康関連 QOL の向上に一定の効果がある可能性が示唆されてた。

＜引用文献＞

①Chida, Y., Steptoe, A., Hirakawa, N., Sudo, N., & Kubo, C. (2007). The effects of psychological intervention on atopic dermatitis: Asystematic review and meta-analysis. *International archives of allergy and immunology*, **144**, 1-9.

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　4　件）

①樋町美華、アトピー性皮膚炎患者を有する者の痒みに対する不安への心理的アプローチ－リーフレットを用いた予備的検討－、福山大学こころの健康相談室紀要、査読無、7 巻、2013、91-97

②樋町美華、岡島　義、羽白　誠、坂野雄二、成人型アトピー性皮膚炎患者の不安についての検討－クラスター分析を用いて－　心身医学、査読有、52 巻、2012、734-744

③樋町美華、成人型アトピー性皮膚炎患者の痒みに対する不安への心理的アプローチ－先行研究のレビューから－、福山大学こころの健康相談室紀要、査読無、6 巻、2012、99-107

④樋町美華、臨床心理からみたアトピー性皮膚炎、Monthly Book Derma、査読有、182 巻、2011、53-58

〔学会発表〕（計　4　件）

（1）Himachi, M., Okajima, I., Hashiro, M., & Sakano, Y. (2013). Examination about the connection of the age of onset and the anxiety in adult atopic dermatitis. 15th Congress of the European Society for Dermatology and Psychiatry. 2013 年 6 月 8 日，ロスキレ（デンマーク）（発表論文集 p. 67）

（2）樋町美華・岡島　義・羽白　誠・坂野雄二（2012）．アトピー性皮膚炎患者の発症時期と不安の関連についての検討　日本心理学会第 76 回大会，2012 年 9 月 13 日，専修大学（川崎市）（大会論文集，p.412）

（3）樋町美華・岡島　義・羽白　誠・坂野雄二（2012）．成人型アトピー性皮膚炎患者を判別する不安特徴についての検討　第 53 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会，2012 年 5 月 26 日，かごしま県民交流センター（鹿児島市）（発表抄録集，p. 567）

（4）樋町美華・岡島　義・羽白　誠・坂野雄二（2011）．クラスター分析を用いた成人型アトピー性皮膚炎患者の不安特徴についての検討　第 52 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会，2011 年 6 月 9 日，パシフィコ横浜（横浜市）（発表抄録集，p. 533）

〔図書〕（計　1　件）

（1）樋町美華（2012）．アトピー性皮膚炎　坂野雄二（監）　60 のケースから学ぶ認知行動療法　北大路書房　pp.255-258.

６．研究組織

(1)研究代表者

角田（樋町）美華
（KAKUTA (HIMACHI) MIKA）
東海学園大学・人文学部・助教
研究者番号：20550974

(2)研究分担者　該当なし

(3)連携研究者　該当なし